鳥甲山（ムジナ平～屋敷周遊）・ちょっとだけ獅子岩

2020年10月25日
メンバー：Ａ原・Ｉ崎・Ｋ野・Ｔ野・Ｓ石京・Ｎ谷

　山スキーで神楽峰や苗場山に登ると、秘境「秋山郷」の谷を隔てた西側に、鷲が翼を広げたようなピラミダルな山容が目を引く。これが第２の谷川岳という異名のある「鳥甲山」だ。以前から気にはなっていた。ただ、なかなか登る機会はなく「まぁ、そのうちにね！！」という感じで後回しにしていた。今回、Ａ原さんが、「長野、小さなお宿支援」なる、宿代が¥3000引きになるキャンペーンを見つけて、贅沢にも秋山郷で料理自慢の宿に格安で泊まって紅葉最盛期の鳥甲山に登る計画を立ててくれた。こんなチャンスは二度とない、これはかなり魅力的だ！！と、直ぐにエントリーさせてもらう。

　本来、土曜日に鳥甲山に登って宿で下山祝い！！翌日は飯士山でハイグレードハイキング、という予定だったが、日本海側に強い寒気が入り、土曜日の天気は絶望的、日曜日もかなり微妙、という予報となり、日曜日に賭けることにして土曜日は、予報の良い西上州の子持山に向かう。

　10/24

　朝、7:00に秋葉原を予定通り出発したが、Ｇｏｔｏ渋滞にはまり、小持山の登山口には予定より1時間以上遅れて10:30頃になってしまった。10:45に6号橋の登山口を出発。「小持山」は穏やかそうな名前とは裏腹に結構険しい山だ。7号橋で林道を離れ尾根沿いのルートを行くが、痩せ尾根のアップダウンが続き、眼前にはクライミングで有名な獅子岩がまるでゴジラが拝んでいるようにも見える。標高が上がるにつれ木々が色付き始めて良い感じになってきた。やがて獅子岩と小持山の分岐があり、折角なので見栄えの良い獅子岩に立ち寄ることにして梯子や鎖をよじ登る。山頂は高度感満点で景色も良く「登頂感、満載！」・・・。というわけでもないが、時間もかなり押してきたのでＡ原リーダーが「ここまで！！」と宣言。折角の料理自慢の宿に着くのが遅れることを恐れ、全員異議なしで終了に同意して下山。明日のための良いウォーミングアップとなった。

■写真上　獅子岩をバックに。ゴジラが拝んでいるように見えませんか？
■写真中・下　獅子岩のてっぺんで。バックは紅葉の子持山

　さて、下山してスマホでテンクラを確認すると明日の鳥甲山の予報がＡからＣランクに格下げになっていた。どうやら思ったより寒気が強いようだ。昭和の湯で汗を流し、選択肢はないのでとりあえず秋山郷を目指す。関越トンネルを越えると、関東の天気が嘘の

ように本降りの雨！！気持ちがどんどん落ち込んでいく。「まぁ、明日は雨が止んでくれれば御の字だな。」とその時は思っていた。

宿の料理は地元の食材が中心で前評判通り美味しかった。オーナー夫妻も感じよく、機会があればまた泊まってみたい宿であった。宿の名前は「民宿丸山荘」、覚えておいて損はないと思う。夜、雨が止んで星空に・・・！！期待と不安・・・さあ、明日はどちらに転ぶ？

10/25

果たして朝はべた曇りだった。鳥甲山は濃いガスの中だ。やはり、テンクラＣは当たりか。まあ、降らないことを祈ろう。車２台のうち、Ｉ崎車を屋敷登山口にデポし、Ｔ野車に強引に6人乗って（一応、７人乗り）ムジナ平登山口へ・・・。ここ、もし歩いたら結構大変、おまけに最後の方は登りだし、何としても歩いて車を回収するのは避けたいところだ。代行タクシーというのがあり、事前に予約すれば¥1500で屋敷登山口からムジナ平登山口に送ってくれるそうだ。まあ、今回は車が２台あるのでノンプログラム。

ムジナ平に到着すると、天気は徐々に好転してきて辺りが明るくなり、錦秋の世界が広がっている！！

7:20出発。最初から急登だが鮮やかな黄色に彩られたブナの森を登って行く。やがて痩せ尾根となり、見上げれば、ブナから赤やオレンジに染まった灌木がメインとなり山全体が燃え、見下ろすと色付いたブナの葉に日が当たり、モコモコの立体的な黄金色に輝く絨毯のようだ。

山はますます険しさを増し、やがて岩場に鎖が垂れ、はるか上には急峻な尾根を登る登山者が見える。この急峻な尾根以外はどこもスッパリ切れ落ちていて、登路はここ以外考えられない。思ってた以上に険しい山である。

1944.2mの白嵓ノ頭まではいくつかの小ピークを越えていくが、ずっと痩せ尾根が続く。さらに、上方を見ると何と白いものが・・・。どうやら昨日の冷たい雨は、山の上では雪になったようだ。辺りの燃えるような紅葉と、これから行く上部の白銀に輝く霧氷・・・。「素晴らしい！！」生まれて初めて見る３段染めだ！！

■写真上　鮮やかな黄色が映えるブナ林。
■写真中　最初の岩場を登る。
■写真下　山が、燃える♪♪（石川さゆりの「天城越え」より。）

ピークに着くたびに次のピークが現れ白嵓ノ頭は遠い。やがて傾斜が落ち着いてくると、辺りは針葉樹

林帯となり、木々の枝には氷の花が咲き季節は秋から冬へ・・・。

天候も回復し青空に霧氷が映え、メンバーは皆、興奮状態だ。これはテンクラＣどころか超Ａランクである。単に晴れただけで見られる景色とは違い、様々な条件が重なって初めて見ることができる凄―い景色である。「超ラッキー！！」

白嵓ノ頭から鳥甲山はこのルートの核心部。針葉樹林で隠されていて、なんでもない稜線に見えるが、実は痩せた岩稜のアップダウンが続き、その上り下りは両側がすっぱり切れ落ちているだけでなく、ザレている場所もあり、どちらに落ちても「お・し・ま・い・ｄｅａｔｈ！！」と大和田常務が叫んでいる。「こんなとこ、死んでもいやだね！！」と開き直るより、とにかく慎重に歩くことが安全への第一歩だ。

特に1908m付近は気が抜けないので要注意。ここを越えて本峰の登りになれば、徐々に穏やかなササの斜面となり、屋敷登山口からの道と合流すると鳥甲山山頂はすぐであった。ルートが険しかっただけに充実感いっぱいで皆でグータッチ！！健闘をたたえ合う。

肝心の展望の方は、スッキリ晴れてはいないのであまりぱっとしないが、苗場山や志賀高原の山々がキレイに見え、特に苗場山は、山頂台地がだだっ広く、その女性的な山容は秋山郷を隔てて対峙する鳥甲山と対照的で、例えるなら「血気盛んな戦国武将と、それを見守る穏やかで優しい姫」と思えるのは私だけだろうか。さらに、佐武流山や白砂山といった奥深く不遇な山々もしっかり脇を固め、初めてその位置関係を知ることができた。越後方面は黒い雲が立ち込め、晴れる兆しは見られず、ちょうどこの辺りがギリギリ晴天域だったようだ。

■写真上　紅葉と霧氷の３段染め！！
■写真中　これも、美しいに尽きる！！
■写真下　青空に映える氷の花！！

「サァーて、後は下りるだけだ。」と軽く考えていたが、それは甘い考えだということをすぐに思い知らされることになる。とにかくよく滑るのだ。しかも片側はどこまで落ちるかわからない崩壊壁で危険この上ない。こういう場所では転倒が即、死につながる。鳥甲山は「決して困難な山ではないが非常に危険な山である。」ここも慎重に足を運ばざるを得ない。そして、その危険が去ってホッとするもつかの間、1452.8mからは、滅多にお目にかかれない急降下で、どんなに注意して慎重に歩いても必ずどこかで尻もちをつくドロドログチャグチャの悪路である。おかげで靴はもちろんパンツまで泥だらけ。トレッキングポールが１本、転んだ拍子に尻の下敷きになり、グニャリと曲がって再生不能になってしまった。この付

近は紅葉が最高潮で非常に美しいところだが、紅葉を愛でるときは必ず立ち止まって見ることを薦める。

　そんな絶悪な登山道も堰堤が見えてくればあと一息、終わってみれば、コースタイムは休憩含めて6時間20分！！皆、早い！！ちなみにエアリアのコースタイムは7時間20分（休憩含まず）。

　急登に次ぐ急登、燃えるような紅葉、白銀に輝く霧氷、両側スッパリ切れ落ちた岩稜、どこまで落ちるかわからないザレた崩壊壁、絶対転ぶドロドログチャグチャの急降下、そんな感じで鳥甲山は、変化に富んだ、美しくもピリリと辛い通好みの良い山でした。

　リーダー兼計画立案していただいたＡ原さんはじめ、メンバーの皆さん、有り難うございました！！もうじき山も冬ですね！！雪山も美しく楽しいので、またご一緒しましょう！！ではでは。

■写真上　鳥甲山頂上にて。
■写真中　危険極まりない崩壊壁。
■写真下　鳥甲山山頂を振り返る。

■鳥甲山コースタイム
ムジナ平登山口（7:20）～（9:34）白嵓ノ頭（9:39）～（10:38）鳥甲山（11:00）～（11:26）赤嵓ノ頭（11:38）～（13:38）屋敷登山口